

# 新たな不登校が生じない取組 (「未然防止」の取組)

## 不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

### 【取組1】(A中学校)

教員が生徒の主体性を尊重することで、生徒が意欲的に企画して取り組んでいる。例えば、生徒会主催の「中庭プロジェクト」では、定期的の中庭を活用し、全学年でじゃんけん列車を行い、学年の垣根を越えて交流したり、運動会で行えなかった部活動対抗リレーを行ったりして、生徒の達成感や全生徒のきずなづくりにつながっている。

「挨拶運動」では、生徒会役員が作成した挨拶運動バッジを教員や生徒に配布し、身に付けてもらうことで、挨拶の意識を高め、人とのつながりを大切にしている。

また、いじめ反対の意思表示をする「ピンクシャツデー」や、乳がん早期発見を呼びかける「ピンクリボンデー」も毎年行っており、全生徒へ積極的に周知している。



中庭プロジェクト



挨拶運動



挨拶運動の際に生徒会が作成した挨拶バッジ

### 【取組2】(B中学校)

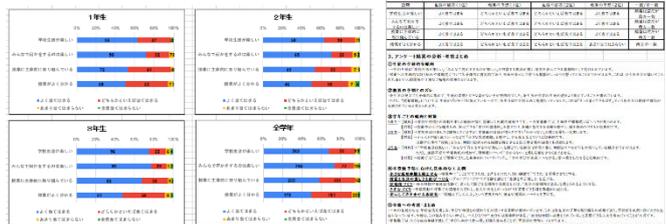
社会科の授業では、導入で簡単な質問から深掘りしていき、身近な例を挙げながら誰もが分かりやすい説明をしていた。板書も最低限にすることで、生徒が話に集中できるようにした。

後半には自由に振り返りの時間を設けており、生徒同士の学び合いや、一人で自習をする生徒など、生徒の主体性を尊重している。集中が難しい生徒にも、ただ注意するのではなく、生徒の思いを聞き入れ認めることで、生徒の自己肯定感を高める授業になっていた。

### 【取組3】(全巡回担当校)

全校を対象に生徒意識調査を行い、結果を職員会議で共有した。アンケートは学年ごとにグラフ化し、教員予想と並列比較した。分析・考察した上で、学校の課題と具体的な対応策を助言した。

また、巡回教員として、巡回しているからこそ気付くことができる各校の良さを伝え、更なる魅力ある学校づくりにつなげた。



## 多様な学びの場を確保する取組

### 〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

#### 支援会議（C中学校）

使用している支援会議シートは、不登校の生徒や特別支援の必要な生徒の人数や登校日数等に応じて、チャートのように図式化している。支援会議を毎週行い、一人一人に対して丁寧に全員で検討し、支援策を話し合っている。

#### アウトリーチによる支援（全巡回担当校）

各校で、不登校生徒の保護者との面談や家庭訪問を通じて、家庭との関係構築を行っている。保護者・生徒の状況や要望に応じて、電話連絡や家庭訪問の頻度変え、安心感をもたせたり、校内別室につなげたりして、学校への信頼感を意識している。

#### 校内別室における支援（D中学校）

時間割を個別学習とグループ学習に分け、各生徒が時間を決めて校内別室を利用することができるようにしている。普段は広い机を用いて複数人で学習やゲームを行っているが、1人になりたい生徒はパーテーションとカーテンで仕切られた個別ブースも利用できる。また、棚に生徒の制作した作品を展示したり、利用生徒と支援員の自己紹介カードを掲示したりと、アットホームな空間になるように配慮している。カードゲーム類だけでなく、学習用図書も5教科全てが数冊ずつそろっており、生徒の主体性を尊重しつつ、個人のペースで取り組ませている。



#### デジタル機器を活用した支援（E中学校）

黒板投影用クロームブックを各学年設置し、校内別室や自宅など、いつでも授業が視聴できるようになっている。校内別室では毎日のように複数人の生徒が集中してオンライン授業を受けている。支援員が生徒と授業の内容について意見交換する姿も見られる。

#### 関係機関との連携（全巡回担当校）

地区内の教育支援センターを各校数人ずつ利用している。大学の一室を利用し、静かに自習したり、外で小学生と共に体を動かしたりする時間などを設けている。

また、7月に巡回教員が不登校生徒の家庭向けに進路説明会を行い、上級学校への理解と見通しをもたせた。

## 成 果

担任と連携しながら校内別室の利用を促すことで、全く登校できなかった生徒の登校日数が増えた。また、2学期から各校でアウトリーチを始め、保護者や生徒への支援が増えた。

## 課 題

不登校生徒への多様な支援方法を考えながら、担任や家庭と連携を図り、別室の紹介やアウトリーチを更に進めていく。